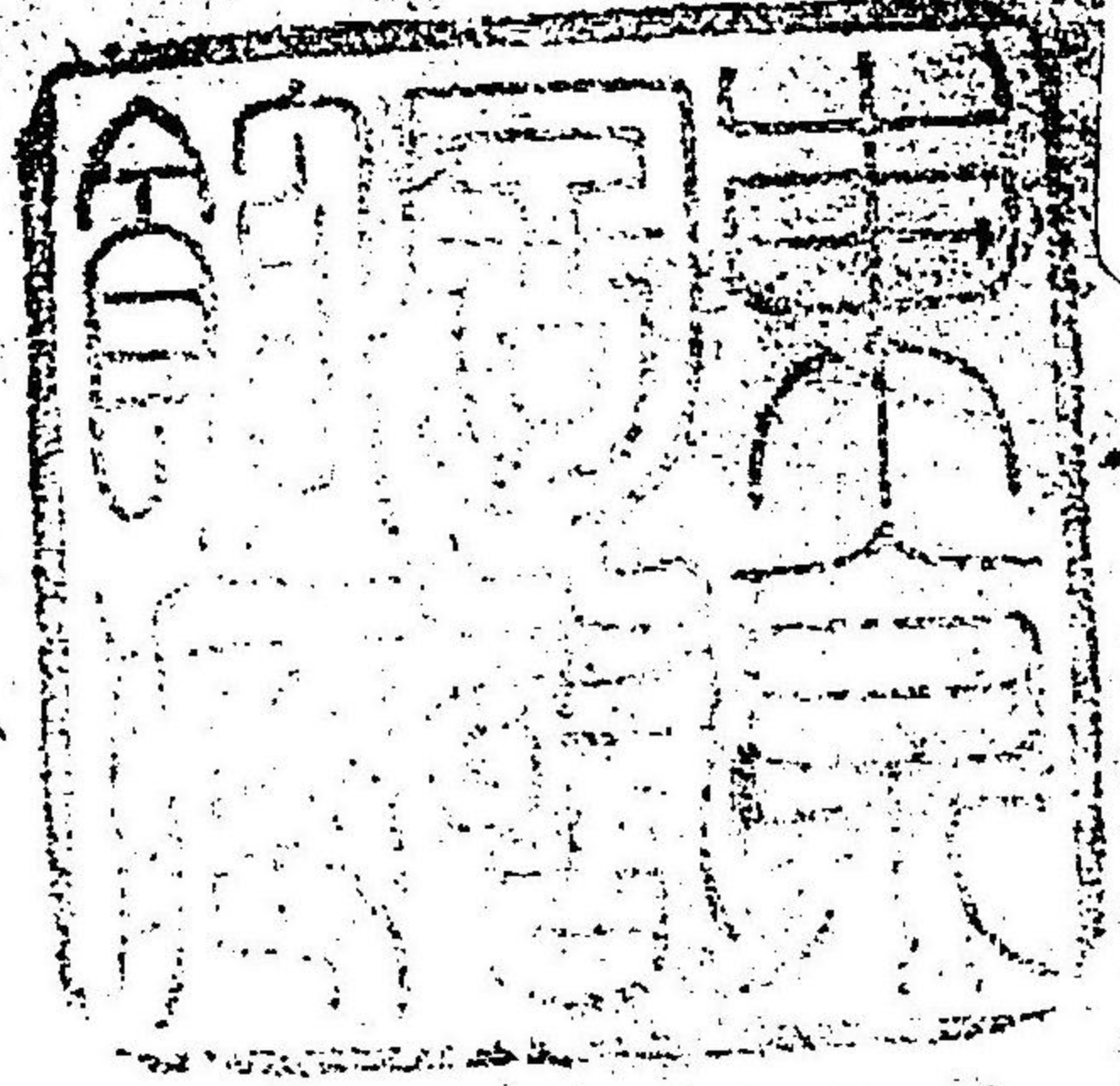


特 54

284



人物蒙求

上

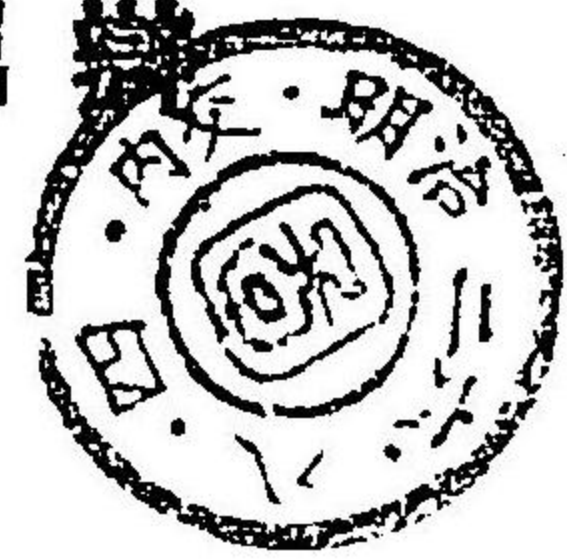


特54
284

人物蒙求卷之上標題

栗天野森荒栗東岡乾齒福小
亮文四正一實洲武覺鹿次義
酒修沽洋慎屏講誇叻孤息失
落正茶行重風武勇辨憤翼敗題

長長河和深北田通木上駒刑
氏七孫久始米伸子周平作千
名一謹失艷万吟尺鐘恭不多
望票直性福歲社牘音謙屈



石齋林松今野野淡長牛船立土
四種宗恒忠幸安山景卓龍奇幹
自張建交泣杜老豪悟保郵細愛
由翼議際稅氏練放道守船談山
竹宮森清瀧尾中伊川佐田海田
駒右六長義二寅謙四義武謙善
絕濶自泣清法獨變着慈保直風
筆達重牛懷士步節實善儉温流

白中中杉岡伊小田九北伊八山
直玄豪伊龜小正林紋矩祐愛伊
清精面精軍紡老大富厭謙能茶
約練壁米醫績朽榭豪世讓技話
山二中福菅朝船齋松佐太宮深
傳鈴知兼亮順輯迪忠邦小彦聳
運別銀勸訴勇放賣倒鑑鐵接博
送課行業訟退語桑產識道骨辨

諸角稻鈴下三伊杉鈴森內上木
 清利三善亨猶傳保廉確如秀誓
 誇著偉眼美關紡盲感尊取志改
 稱書業療髯鐵績日憤大履堅進
 高白大野安川速後堀樸川菊辻
 貞清參龜東寬熊仁鶴堂飛哲寬
 斷棄開養敬教風舞養能棄興寬
 念業鑿蠶神育鑑踊物書匙家藥

學堂
 以上二百四名
 大臣
 竹樸寬慈

人物蒙求卷之上

小義 失敗

刑 千 多 辯

木魚居士著

小義姓小河名義郎一志郡久居の人性狷介慧捷少壯にして四方の志士と交り活地に活動して頗る自得の色あり勤王攘夷の徒起りて世論莫々たるに際し京師に上りて運動を試み彼の足利の木像を四條河畔に梟首せし一人たりしか兵定の後仕して警視廳となり幾もなく辭して民間に下り自任實業家を以て米國に航し師朝の後郡宰たる數年去て縣會議員となり常置委員の列に入りしか進んで衆議院議員たらんと欲し奮然侯補旗を翻せしも疾風の爲めに挫折されて又た立たず斷念して大和に奔り笠置に隠れて神苑創設の爲めに斡旋東西す

刑千姓刑部名千太郎志州安虞郡檜山村の人番醫既に奇才あり素行總て衆僮に異り成

人と伍して未だ挫折せしを聞かす人呼て奇童となす長するに及んで益々舌鋒を鋭し好んで政治を是非す縣會議員となりてより層一層雄辯を振ひ辨説家を以て自任す然れども其議の容れられしもの鮮なし故に人稱して弄舌家となすに至る

福次息翼

駒作不屈

福次姓福地名次郎阿拜郡柘植村の人家世々郷士を以て聞ゆ藝に伊賀近江國境の爭論起り紛擾相解けざるもの數十年頑比激昂屢不穩の兆あり福次大に之を憂ひ慰諭百方至らざるなしと雖も肯す日に月に障害の涌出を見るのみ然れども堅忍豪氣敢て毫も撓まず遂に能く和解の功を奏してより村民益々其徳に服す地方議會開設の日より曾て其選に洩れしことなく副議長の榮位を占むること前後三回硬派議員を以て大に名聲を揮ひ夙に自由主義を唱道して地方の政治思想を喚起奔走全力孳々しとして怠らず資性素より沈毅にして多辨を好まずと雖も能く人をして服せしむるもの最も長所の長たり帝國議會開設の期迫り政海の波瀾鬱々として天地を聳動し隨て騙詐銅臭の

弊百出するに及んで聞くに堪へず耳を洗つて故山に對し吟詠以て羽翼を養ふ知らず鵬鳥何れの時に翺翹して天を衝くあらんとす

駒作姓駒田名作五郎奄藝郡棕本村の人性沈着にして物に動せず曾て縣會議員となりて公平の聞高く衆大に望を期す然れども職を辭して身を實業に委ね三井物産社員とありて商戰場裡に旗幟を翻さんとせしも感を懷て同社を辭し専ら製茶事業に奔走す明治十四年縣下同業者の注意を惹かんとして自園の製茶壹方五千斤を英國に直輸し益々奮勵遂に能く三重製茶會社を設立し自ら社長となりて盡力至らざるなく或は社員を歐米に派遣して實況を視察せしめ社業漸く盛大ならんとせしも俄然外國相場の暴動に遭遇して非常の損毛を蒙り爲に其業を中止するに至れり然れども不屈不撓終始斯業の爲めに盡すあらんことを期し日本製茶會社設立の議あるや卒先して幹旋の勞に當り政府約するに數十方の補助金を下附せんとするに至りしも世論の爲めに排斥せられて遂に成らんと駒作憤慨斯業の衰退邦家の富源を閉塞するを憂ひて措かす

雖ども時世止むへさきく四日市港に三星商店を開きて其不振を謳ふのみ受くる所の
賞牌十八以て其熱心を証すへし

蘭 鹿 孤 憤

上 十 恭 謙

蘭鹿姓蘭部名鹿之助飯高郡井村の人性質硬直已を曲くすることを知らず夙に保守主義
を奉して志想を轉せず縣會議員となりて針砭の言辭を揮ひ宛然無人場裡を馳するか
如し彼の田中警部長の干渉を論するに當つて衆員の輕佻を嘲り毫も組する所なし凡
そ天下事あるに際しては獨り自ら感憤するのみ故に人稱して異丈夫と云ふ

上十姓上野名十太夫北牟婁郡赤羽の人資性敦厚にして寡言あり維新の後屢公務に執
掌す當時官尊民卑の弊尤も甚しく爲めに公務の圓滑を失するに至る上十甚た之を憂
ひ恭讓以て人に接す常に人に語て曰く人世尊卑の別誰か之を命するものと家人と
雖も禮を忽にせず郷黨大に其徳を慕ふ推されて縣會議員となること數回敢て卓落の
論議を口にして人を驚かしむるを好まず惇々として主要を辨し世説に媚ひす信する

所を枉けず毅然として已を持する如きに至つては當世紅顏の徒將に以て龜鑑とする
に足らん

乾 覺 呐 辨

木 周 鐘 音

乾覺姓乾名覺郎多氣郡齊宮の人性温順にして思念革固なり縣會議員中夙に長老を以
て聞ゆ壬辰の感警部長田中坤六の爲めに縣會頗る騷擾を極め硬軟兩派に分るゝに及
んて乾覺陽に硬に組して陰に軟に屬すれども世人之を知らず最終の日大に氣焔を吐
かんとして妨げられ遂に素懷を敷衍する能はず或人曰く乾覺をして能辨ならしめは
説來り説去て知らず識らず軟骨を表出するに至らん其の呐辨なるを以て身能く硬派
の列にありて今尙名聲を持續す之れ是を呐辨の幸と云はん乎

木周姓木村名周太郎三重郡赤水の人性豁達にして小節に抱らす維新の際軍に従ひて
各地に轉戦し弋止むの後三重縣警部に任せられ職にある數年頗る事務に精通し能吏
を以て稱せらるゝに至る時に地方代議制の發布あり木周大に感ずる所ありて職を辭

し遂に縣會議員に擧らる其論議喧々諤々傍ら人なきか如し其音聲鏗々として百鐘の鼓膜を劈くあるに似たり常置委員に推され地方政務に參與するものと數年期滿ちて其職を退く

岡武誇勇

通子尺牘

岡武姓岡本名武雄舊桑名藩士なり兒たりし時より文武の道を講し長するに及んで東都に遊學し新聞記者となりて滿腔の忠を論すと雖も世人敢て褒せず貶せず是に於て自ら評して曰く岡武何る文弱に陥るの徒にあらん眞乎たる力量を示すは硝煙場裡の外なしと

通子は土居淡山の室にして夙に貞操を以て隣里に響く一見溫柔平凡の婦女子に異らすと雖も豪氣男子を凌ひて國家心に富み天下の樂みを以て無上の樂とす彼の衆議院議員選舉干涉の事起るや書を品川内務大臣に寄せて時弊を痛論し其の議院上奏按に對して嶋田三郎等に意見を陳する如きは有髯の及企すへからざる所通子又た多

望の女丈夫と云ふへし

東洲講武

田伸吟社

村上氏名光實東洲は其號なり東京に生れ幼より文武兩道を好み文を重野成齊に學ひ劍法を比留間良八に受く亦甲源一刀流神流陣鎌等の奧秘を究め弱冠にして其名を知らる戊辰の乱彰義隊に加はりて諸士を凌駕し事夷くの後警部に任せられ職にある數年辭して勢陽に客たり勢陽長く閉日月を與へず擧げて警部に用ゆ然れども些末を裁するの器にあらざるを以て又た職を辭し全國周遊の長途に上りて大に悟る所あり終に居を松阪に卜して擴武館を説立し専ら英達の氣象を振起せしめんとす遠近其の豪邁を慕ひ來て門下に投する者百餘名何れも活々有爲の志士なり之に依て世人勢陽の南洲と稱す

田伸姓田中名伸稻高知縣の人性沈毅にして宏量あり弱冠京師に出て、學を修め戊辰の際軍に従つて各地に力戦し後ち板垣總督の旗下に屬して會津母成峠に奮戦し銃丸

右肩を傷く然れども豪氣毫も撓まず歸藩の後格式一等を進め永代録を賞賜さる後ち陸軍々曹を拜し累進大尉に至り従六位勳六等に叙せられ三重縣大隊區司令官心得たり職に青森營所にある頃日清萬藤の起るや人皆荒凌の勢を逞ふし動もすれば少壯血氣の暴逆を放にせんとするの傾向あり是に於て月梅社を創立し公務の餘暇を以て詩文を講す月は洞庭に採り梅は江南に採る之れ他なし一朝有事の時に當り是を彼地に吟詠せんとするの意なりしと云ふ

栗實屏風

北米萬歲

栗實姓栗原名實也北牟婁郡尾鷲の人氣力ありて任俠を好み少年を糾合して梁帥となり名聲郡中に聞ゆ縣會議員となりて説く所侃々諤々時に適ま郡費節約の動議出るに及んで大聲疾呼して曰く吾北牟婁郡衙の書記某は所内に在て屏風の經師を業とせり之れ冗員多きの致す所なりと立証精覈終に能く改革を促す之より世人稱して屏風議員と云ふ

北米姓北村名米助北牟婁郡尾鷲浦の人奇行家を以て聞ゆ縣會議員に擧られ職にある數年未だ功績あるを聞かす然れども奇言奇行屢々議場を騷擾せしむ適ま感ずる所ありて世界周遊を企て東上三百金を投して古代の服裝即ち垂衣水干の類を整へ試に着帶して友人某を訪ふ誤認以て三河万歳とあし敢て内に入らしめ去て又某を訪ふ前者に異らす倉皇歸りて鏡面に對すれば恰之れ一個の貴公子なり是に於て憮然として歎して曰く甚乎日本男兒を見るの明なきこと世人又た語るに足らずと終に去て行く處を知らず

荒一慎重

深始艷福

荒一姓荒木名一作韓市に住す温良忠直にして事を爲すに謹慎を旨と人々を察すること掌中にあるか如し故に代言を職として詞訟の勝敗を卜するの術に長し大に名聲を賣る然れども利に奔らす已を持して修飾を避け自他稱して出舍漢となす之れ荒一か得意とする所にして誠意精神を以て人となす所以なり居常民權を唱へて藉を自由黨

に列し社會の爲めに盡せしと又少からず

深始姓深山名始三郎伊州名張郡夏見村の人性温厚人と争はず然れども夙に名を知ら
にて縣會議員となり又茶業組合委員長として屢々津市に出て花を愛し月を買す妓
輩又深山の花として纏綿歎賞し風波を送て之を散せしめんとし遂に俚歌に上れり
て艶福長者の名を成すに至る

森 正 洋 行

和 久 失 性

森正姓森名正道三重郡羽津村の人性行豁達にして幼より洋漢の學を脩む家素より醫
を業とし嚴父の小兒科を以て名聞を博取せしより斯道を以て倍々家聲を高からしめ
んことを期するや時に恰も三重縣に於て大學醫學部派遣生撰擇の舉あり森正撰れて
之に當り優等卒業の功を奏せしも獨乙學專修のため都下に止まること三年親族朋友
の讒を容れて版省の途に上り一旦四日市に門戸を搆へしも區々素より地方に在りて
徒に日月を經過すへきことを喜はず奮然万里の波濤を蹴て獨乙に航し「コンライブル

ッ」大學及び伯林大學に入りて「トクトル」の稱號を得進て英佛和澳瑞匈伊等の實況
を査察して得る所少からず歸朝の後嚴父の老を扶けて山中の故園に入り多數の患者
を待して懇切到らざるなし俚俗傳ふ小兒の病症は森氏の闕を跨ぎて癒ゆと

和久姓和波名久十郎員辨郡下笠田村の人家世々農に隱る曾て同郡の有志木誓の援を
得て縣會議員の榮位を辱ふし縣下屈指の列に入ると雖も人其性行を知らず職にある
こと數年机に倚て飛はす鳴かす何れの時か天を衝く

野 四 沾 茶

河 孫 謹 直

野四姓野村名四郎兵衛南勢山田の人性沈着慎重にして南勢屈指の富家家を以て聞ゆ
と雖も家風を守りて質素を旨とし毫も驕奢に流れず而して製茶は我邦貴重貿易品
たるに關せず利を眼前に争ひて邦家の消長に關する所以を知らざる者あるか如きを
慨し巨資を投して製茶仲買の業を開き販路擴張の企圖として薄利を憂ひす大に外人
の賞讃を受く又其傍ら明治生命保儉會社代理店の業を營み數十の主管を指役して營

々事に服す

河孫姓河合名孫六奄藝郡白子町の人性質著實にして虚飾せず世々藩廳の用達を勤め驛傳の劇務に當る先考孫六子なくして之を養ふ幼より堅忍長するに及んで謹直周到闊卿之に服して縣會議員に擧げんとし數々諾を求めども肯ず職郵便局長を奉し一意専心數年一日の如く繁雜の事務を處理し未だ曾て繁を知らず

天文修正

長七一票

天文姓天春名文衛三重郡中野村の人家世々農に隠れ富豪を以て稱せらる文衛に至り殖産熱心を以て名聲を博し擧られて縣會議員となり力を縣會に盡すこと數年後衆議院議員となり地價修正論を以て名を天下に轟かすに及んで郷黨倍々其渴仰を重ね殊に非論の敵國に遊説して無人關頭を過ぐるか如きに至ては人其の膽力に服せざる者なし

長七姓長谷川名七右衛門奄藝郡白子町の人にして寺家子安觀音の別當たり寺の門前

娘婦あり醬油醸造の業を營み財産少あからず長七之れと昵近す入婿して長谷川の姓を侵すに至れり後ち縣會議員に擧られ富貴を縦にす初期の帝國議會開くるの前衆議院議員の當撰を争ひ百方盡力するも漸くにして一票の點を得たるのみ世人稱して一票紳士と云ふ

栗亮酒落

長氏名望

栗亮姓栗原名亮一志州鳥羽の人資性廉直高節を持して世に阿らす學洋漢を兼ね丹誠以て人を推す曾て板垣翁と共に海外に遊ひ諸般の實狀を探り又た支那に遊ひて上海に寓し身を海外に置くこと二十有餘年終始自由主義を奉し黨中の名士として奔走東西家門に過らす險激波濤の政海に航して博識の聲望を天下に轟し推れて衆議院議員となり倍々驥足を伸さんとす其の精神不拔胸中政策の縦横するゐるも顔貌に現さず禪僧を學ひて時に洒落の言を吐く之れを是れ栗亮の栗亮たる所以となす

長氏姓長井名氏克津の舊藩士なり資性英邁にして膽力に富み兼て文武に通して細行

を意とせず戊辰の際藩主に従て軍馬の間に奔走し功勞又た尠ならず藩制の頃舉ら
れて大參事となり大に上下の望を繼ぐ後ち廢藩置縣の制成るや朝廷召して重任を負
はしめんとせしも偶々病あり辭して郷里に歸り讀書獨樂補養を事とせしか病癒て代
言人となり大に聲望を博す擧られて縣會議員となり議長の椅子に凭ること數年遂に
市長に推されて能く市民を撫く衆望愈々高し

山伊茶話

深聳博辨

山伊性山本名伊兵衛度會郡山田の人天資明敏能く機を見て變に應ず故に地方交際家
として頗る人望あり居常興業に心肝を碎き就中製茶の改良を以て盡力至らざるなし
有志を誘つて遂に三重製茶會社を創設し推れて副社長となり一意専心其の及はざる
を憂ひ人に接して茶事にあらされは語せず必ず倦むことを知らず故に里稱して山本
の茶話と云ふ

深聳姓深山名聳嶋伊州名張郡夏見村の人剛毅洒落にして人を憚らす少より舌頭を弄

して郷黨の老成を嘲罵し未だ曾て屈せしことあし長するに及んで倍々辨才あり縣會
議員に擧られて議場に入るや四顧平然洒々として論難し條緒の紊亂を厭はす縱横上
下して老輩を凌ぐ深聳未だ老たるにわらず論法を學んで正々堂々の陣を進めは天下
の山川悉く其の舌頭に集らん

八愛能技

宮彦接骨

八愛姓八木名愛之助北勢四日市の人資性開豁にして容物の量あり而して事を成すの
周到なる刀圭家として尤も稱贊を博す常に患者を救して未だ不快の面色を現さず外
科手術の如きは頗る練熟の長所にして稱して三重縣第一流の外科醫となす故に受診
者の遠近よりするもの晝夜の間斷なく聲聞四境に響きて噴々たり

宮彦姓宮村名彦次郎一志郡藥王寺村の人性温厚篤實家世々醫を業とし接骨術の妙手
を以て稱せらる方今醫輩出互に門戸を修飾して顧客を争ひ技を衒ふもの少しとせず
宮彦獨り山中に卜居し山岳と共に泰然として塵世に關せざる者の如し然れども四方

の患者道の遠近を問はず終釋として治を請ふ者門前に溢る爲めに隔絶の山中兩三の旅亭を見るか如き其の特得技能の惠澤となさすんはあるへからず故に世人名を云はすして單に藥王寺の醫と稱し幾十幾百里外に在て之を尋究つゝ來診を請ふ者少しとせず

伊 祐 謙 讓

太 小 鐵 道

伊祐姓伊東名祐賢津市の人尙操高邁進止禮讓一投足と雖も忽諸に附せず少して藩侯の小性となり戊辰の軍に従て東征し轉戰大に偉功を奏す平定の後官府に歴仕して從七位を賜り疾病官を辭して關西鐵道會社に入り専ら民業に服す帝國議會開設に當り第四區より推選されて議場に立つ其の論議凡て民意に適し衆望愈々高し伊祐年五十有餘歳一親二弟あり慈母年齢古稀を超ゆと雖も尙饗饒第一重寛其欠具致就れも才名あり世人普語を謳て曰く何者の老嫗を以て三英の寧馨兒を生むと

太小姓太田名小三郎姓豪邁不遜故らに紳士の態を裝ふ始め彦山權境の別當たりし頃

三條公の詣せらるゝに會ひ胸襟を開放して大に幕府の專横を訴へ論陳通さず條公其の凡俗にあらざるを察見し召して家従の列に加ふ條公等七郷禁を脱して長州に下るや太小隨從頗る功あり戊辰の大亂既に靜謐に歸せんとする頃條公の軍艦鳥羽沖に沈没す太小命を受けて査檢に従事し宇治山田に滞留すると數旬交りを牛車樓の孀婦某と重ね遂に主公に背きて入婿の約を踐み今尙該地に住ひて名を争はず余財を投して參宮鐵道敷設の計畫を立て躬ら社長となりて東西に奔走す

九 紋 富 豪

松 忠 倒 産

九紋姓九鬼名紋七北勢四日市の人資性温良にして紳士の素行に耻ちず家元と富豪資産餘あり故に殖産興業々務の何たるを問はず苟も邦家の利に屬するものあれば巨資を投して勸誘奨勵し胸中曾て一日の閑を與へす専ら心を商工業に委す長男徳之助能く乃父の志を繼ぎ家名を承けて紋七と稱し宏量博仁以て人に敬はれ縣下第一流の素封家に座す

松忠姓松岡名忠四郎三重郡日永村の人乾覺の實弟にして松岡氏の養ふ所となり其姓を冒す性質輕佻事物を輕信す故を以て諸般の事業に伍し遂に倒産の禍を見るに至る然れども敢て徳義を損せず平然自得の色あり頗る圍碁を好みて妙を得たりしより劇中自ら閉日月を消し時に或は泰如として微笑を洩らす

北 矩 厭 世

佐 邦 鑑 識

北矩姓北川名矩一度會郡川崎町の人豪毅宏量にして操節を重し氣慨あり政治上の運動を熱心にす曾て縣會議長となりて果斷議長の名を博し縣下の策士として重を置かれ後衆議院議員に擧げらるや屬望酷た多し然れども一期にして家堂に隠れ洒落として風雅に日月を遣り後園茶を啜つて又た時事を論せず客あれば風光を説て俗塵の世語を消す

佐邦姓佐藤名邦光鈴鹿郡原村の人性温原撲直にして農事に勉勵、俗耳を厭ひて隱君子の古態を學ひ明離婁に及はずと雖ども鑑識力に富み好んで古物奇器を愛玩す

田 林 大 樾

齋 迪 賣 桑

田林姓田中名林助津市の人利を見て進むこと頗る敏捷にして米穀商を營み一世一代双腕を以て津市豪商家の列に班す平素節儉を守りて家憲嚴なりと雖ども時に醉歌して大に笑ふ家號あり關林と云ふ然れども人之を稱せずして大樾屋と唱ふる所以抑も那邊に存する乎

齋迪姓齋田名迪飯野郡横地村の人家素より豪農を以て近郷に知らる故に縣會議員に擧られて榮譽を擔ふと雖ども郡民の爲めに功あるなく寧ろ煩を厭ふて平凡の群に棲息せんとを欲する者に似たり桑園を開きて利を收め牙籌を手にして衡目を争ふ

小 正 老 朽

船 輯 放 語

小正姓小山名正武舊桑名藩士にして少壯より大器の聞あり職を高知縣に奉じて一見識を立て長官の不味を買ひしかは斷然辭して野草を侶とす幾もなく擧られて主税官となり精勵劇務を處理せしか又去て身を在野政治家に列し經世新報の客員となりて

大に氣焔を吐く

船越姓船越名楫五度會郡古市の人代言屋を以て業とし放語一番忌憚なし未だ社會の爲めに功勞の著しきものを見すと雖ども職を賣て才物の名を收得し紳士の態度を學ひて優々恣意に緩歩す

伊 小 紡 績

朝 順 勇 退

伊小姓伊藤名小左衛門三重郡室山人性温良機敏にして先覺の才に富み我邦未だ海外貿易の開けざるに當つて既に養蠶茶業の利及輸出の富源を説き偉績赫々遂に 叡聞に達し我邦殖産家中屈指の人物を以て稱せらる其績を知んと欲せば泗水港頭誠訪境内の碑文を見よ點々句々聲響の文字ならざるはなし其子伊左衛門又た繼て亡父の聲名を眩さす庚辰の歲 車駕西巡父子繼承國利の増進に力を致すを嘉せられ參議山田顯義をして勅を傳へしめ併せて金品を下賜さるゝに至る今其の業を列擧すれば年々製出する蠶糸一万餘斤造酒千三百餘石醬油三千餘石に及び内外賞牌を有する四十餘個

のまきに及ぶ

朝順姓朝川名順三駿陽の人資性活潑幼より學を家塾に受け年齒十六大學南校に入り亞て大學醫學部に轉し卒業の後醫學士の學位を受け大學第一醫院の職員に班せしか聘せられて三重醫學校一等教諭兼病院内科醫長となり大に盡す所あり時に病院内部の宿弊默過に忍ひざるものありしより改革の意見を提起して頗る剴切にす知事岩村定高逡巡決せず遂に其情實の芟除すへからざるを知り嗚呼止ぬる哉の一語を遺して職を辭し居を津市に占めて業を開き名聲藉甚患者門に滿つ

岡 龜 軍 醫

菅 亮 訴 訟

岡龜姓岡崎名龜彦北勢四日市の人天野氏より出て、岡崎氏を繼く幼より穎悟少にして三重縣醫學校に入り轉して第一高等中學校を卒業し身を獨乙人「シキトリヒ」に寄せて醫科大學に入り専ら外科を攻究し緒方三浦佐藤等の醫學博士に従ひて學業大に進み陸軍に入りて三等軍醫となり正八位に叙せられしか職を辭して郷里四日市に

歸り外科専門として専ら皮膚病黴毒患者施術に従事す

菅亮姓菅野名亮太郎加州の人性慎重懲勦弱冠にして笈を背て大阪に遊ひ開成學校に入て語學を研究し東都に轉して慶應義塾醫學部に入り砌礎業を卒て後松山棟庵に就て實務を練習す壬午の年去て伊州上野町に業を開く時に地方の醫家未だ舊實を脱せずして徒に人を凌ぐ菅亮一たひ來て治術を施すや患者悉く其門に集る庸醫の徒是に於て大に之を嫉み疫病流行の際を奇貨として病毒隱蔽の讒訴を起し將に縲紳の辱を受けんとするに至る菅亮憤然辨訴滔々漸くにして縲を雪く其費實に三千金然れども天幸に私せず家門日に盛に妄を加る者又なきに至る

杉伊精米

福兼勸業

杉伊姓杉野名伊左衛門河曲郡玉垣村の人醬油醸造を以て業とし郡内屈指の富豪家たり性沈黙にして人と交ることを喜はず主簿某あり説くに精米事業の利を以てす杉伊頃刻の躊躇を與へす忽ち數千金を投して業を起さしめ大に人目を愕さんとする事遂に

成らざるに至つて世人其失敗を懲む然れども敢て懲に介せず知人某曾て其の失敗を難す杉伊三爾として一語を發せず

福兼姓福川名兼三郎伊州山田郡の人性沈毅にして虚飾を好まず家素津藩郷士たりしより少時頗る文武の道を講し戊辰の亂軍に函館の役に從て偉功あり藩王賞して終身祿を賜ふ後廢藩置縣に及んで里正に擧げられ次て小學教員となること數年郡區更正に際し拔りれて郡書記となり學務衛生勸業の事務を擔當すること始んと十年庚寅の歲縣會議員に擧げられて大に盡す所ありと雖とも福兼の自ら甘せざる所の熱心に奔走盡力するは實業の發達を裨補し就中米作養蠶の改良にありて功績の顯著なる地方の夙に唱道する所なり

中豪面壁

中知銀行

中豪性中田名豪晴芳亭と號す豫州宇和島の藩士なり性沈黙大度にして物に臆せず少壯笈を負て東都に遊學し和漢洋の學を研きて操觚者となり都下に止ること數年與羽

北陸東海を経て三重新聞に入り時事を論ずるに當ては割切忌憚なく艶華を揮ひては優雅彩澗を漂はす然れども禪學と好んで祖師の後を慕ひ菴中法器を滿して參禪す客認めて以て太雅の塑像となし撫して後ち齋を喫するものあり其の躬行又た察知すへし

中知姓中川名知一北勢四日市に家す明敏にして頗る世才に長し慶應義塾を卒業して商事に熱中し第一國立銀行に入りて手腕を揮ひ老成を拝して熟達の聲氣を博し四日市支店の支配人となりて能く庶務を理す人と交りて品等を論せず故に稱して銀行書生と云ふ

中 玄 精 練

一 二 鈴 別 課

中玄姓中村名玄瑞伊州上野人性温厚純直幼にして藩校に入り勉めて文武の道を講習す齡十八醫家の中村氏の養ふ所となり終に意を醫學に專にし京師に出て、新宮涼閣翁の門下に止まると數年轉して京都醫學校に入て卒業の後三重病院醫員に聘用され

しも自ら悟る所ありて幾何もなく其職を辭し東都順天堂に入りて精練怠らす其技儀々進みて郷里に開業し施術の斬新待遇の懇到なるより患者其門に輻湊す阿拜山田組合醫會の組織成るに及んで推されて會長の任に當り繁劇寸時を與へすと雖も衛生の忽にすへからざることを説き寒村僻邑の民をして地方衛生の何物たるを解せしむるに至りしは中玄の力全く與て莫大の功ありしなり

二鈴姓二宮名鈴策志州鳥羽の人家世々藩の武術指南者たり維新改革の際二鈴年未た少にして家道廢す然れども資性穎敏文明の學を修めて大に成すあらんことを期す偶語學校を南勢山田に創設し英人「サンテマン」を聘して學生を募集するに遇ひ二鈴撰れて堂に入り日夜勉勵頻に語學を修む當時醫學の進歩遅々として頗る幼稚なるを感せしより斷然志を決して度會三重醫學校に入り業を終て大學醫學部別課生となり卒業の榮を擔ひて再び故園の山川に相會してより職を三重縣醫學校及び病院に奉すること數年後職を辭して居を四日市に移し業を開きて術を施す泗水素より老練得達の

人なきにあらずと雖も二鈴尤も能く名聲を馳す

白直清約

山傳運送

白直姓白石名直治關鐵會社長として四日市に在り資性謹直事物に周到にして理財に通ず理學博士の榮稱を肩にすど雖も誇らず奢らず平素節儉を守りて家政を調理し天下華奢の輩をして悉く慙死せしめんとするの趣あり出て、社務を整ふる又た家を治むるに異ならず一塵一芥と雖も親しく點檢の勞に當るか如きは平凡の得て成す能はざるの業たり然れども未だ頰を感せしの内容を見ず白直又た一個の大丈夫と云ふ可し

山傳姓山中名傳四郎北勢四日市の人少より商業に従事して機に應ずるの才略に富み屢々巨利を占めて家大に裕なり運送會社を創設して支舖を各地に設け倍々利得を射る然れども處世の要に通し敢て酷薄の行爲を現はさず公益事業の起らんとするに當つては遂巡躊躇の暇なく進んで勸誘獎勵の勞を擔任し熱心事理を處すと雖も時に

表裡操畫の練なきにあらず

土幹愛山

田善風流

土幹姓土井名幹夫北牟婁郡尾鷲町の人着實にして志を實業に傾け輕忍突進して世潮に捲せられず斷然已を持って論ることなし力を樹木の栽培に致して多く樹林を育し愛徳育養慈母の遺孩に於けるか如し知らず土幹又た一個の智者たることを

田善姓田中名善助伊州上野人慷慨氣節あり商事繁劇の間を偷みて時事を講し公共事業に奔走して煩を煩とせず屢々意見を公にして世人の矚目となり勉めて少壯血氣の聲を勝抜す併て風雅に志して奇行あり風景保存の請願書を帝國議會に致して大に開陳する所あり之れ皆慷慨の餘情にして又た止むべきものあらざるなり

立奇細談

海謙直温

立奇姓立入名奇一伊州上野の人性慎重にして事を成し周匠なり嘗て縣官に擧けられしか辭して縣會議員となり辨を弄して苛細に潛入し時に或は大体の意義を過す勝を

嗣して衆議院議員となりしか終に舌頭を爛して講場を聳動せしを聞かす居常人と談して緒言を開放し知らず周到細密の域に入る故に稱して立奇の細談と云ふ
海謙姓海野名謙次郎安濃郡栗加村の以沈毅にして處世の才あり曩に縣會議員に推選されて常置委員となること數年内外尊信目するに長老議員の稱を以てす副議長となりて能く衆員を御し徹頭徹尾誠心を以て事を處す曾て地方人民の爲めに身を犠牲に供するに止まらず在野の政治家と相携へて力を邦家に致し民權を唱して胸中閑暇を有せず

船 龍 郵 船

田 武 保 儉

船龍姓船本名龍之助高知の人幼より明敏機變に應ずるの才あり三菱會社の給事となり歴々智囊を叩て長者を凌駕す社長岩崎彌之助一見之を器として大に愛撫す長するに及んで社務に當り函館支店支配人となる適々共同運輸會社起りて三菱と衝を争ふこと一年餘貴顯縉紳其間に立ちて百方調停の勞を取り函館を合して日本郵船會社と

なし社規を改正すると同時に役員の刷新を行ひしも船龍依然函館に在て事務を繼續し後四日市に轉じて勉強昔日に異らす船龍船將に社にして腕氣益々加はる三菱會社曩に賞金三万圓を贈りて其功勞を謝す以て其の成業の著しさを知るへし語曰英將下無弱卒と船龍身を給事より起して海上王と稱せらる岩崎の知遇を得將來倍々大に成すあらんとす古人の語果して信なり矣

田武姓田中名武兵衛三重郡四日市の人養はれて家を繼ぐ世々肥料を以て商業とす酒港の有志商工會を組織するに及んで選れて幹事となり同社の機關として四日市新報を發行す今の三重新聞即ち是なり田武膽大にして小事に醜態せず東京の紳商小野寺某と詢りて數十萬の資を投し以て帝國生命保險會社を創立し自ら社長となりて其名大に振ふ幾もなく辭して郷里に遷り選れて縣會議員となり風采あり一夕金城の旗亭に泊す主婦誤り認めて華族となし款待至らざるなし田武又揚々して自付し十五金を投して茶資となす郷黨之を聞て冗費を愁む

牛車 保守

佐義 慈善

牛車姓牛場名卓造一志郡中村の人性温厚にして世務に長ず曾て大藏省に出仕して書記官となり従六位に叙せられしか故ありて職を辭し後朝野政府の聘に應じて補佐の任を受けしも幾ならずして再び大藏に入り主税官を命せらる又罷めて野に下り藤田組に入て商業に従事し遂に衆議院議員となりて保守主義を尊信す

佐義姓佐藤義一郎北勢桑名の人温厚篤實にして精神鞏固なり年既に老ぬと雖ども事に當て果斷能く衆を服せしむるは佐義に如かず社會公益の事業に當ては敢て粉骨を懸けす自ら進んで少壯を誘ふ富有にして見識の高さより桑港第一の好人士として頗る名聲を馳すと之れ未だ佐義を知らざる者の言にして其の徳望の熾灼たる所以は恩惠を施して下賤を侮らざるにあり

長景 悟道

川四 着實

長景姓長尾名景略津市の人性着實にして邊幅修飾せず曾て三重縣酒造會議法顧問

の任を托せられ強魁以て事に従ふ後伊勢新聞社に入りて主筆となり特待の文を播して倍々隆盛の域に邁せしめ敢て己の功となさす頗る釋氏を尊信して世道を悟了し愛宕下なる齋藤拙堂翁の別業に虎踞して風致を侶とし春花秋月に嘯きて龍音を吐し辭客を陪て古松を撫するの狀況誇天下の事を論するの士となすものあらず其文を讀て初めて欽羨の念を起しもの世間幾許の多きを知らず

川四姓川喜多名四郎兵衛津市の人性着實にして輕行務進の舉動なく夙に商業に従事し又諸般の事業に幹旋し且て倦むことを知らず第百五國立銀行創設に際し大に力を盡し推されて取締役となり事務執掌の中に在て市會議員に舉られ頗る其の職を盡す又津市商法會議所を設んとして大に盡力する所あり聞く此の人にして市長たらんとを希望しつゝありと之れ或は風評子の好事なる乎

淡山 豪放

伊謙 變節

淡山土居氏名光華淡州の人性磊落豪放幼にして和漢の學を修め中年笈を負ふて東都

に遊學す岩倉右府其の學を愛し召して内務大書記官に任するの命を傳ふ辭して曰く
寡人未だ政府に事ふるの道を學はずと講師に聘用せんとす又辭するに肥肉便腹跪坐
の耐ゆへからざるを以てす右府許すに座作進退の自由を以てし切に之を促す遂に召
に應じて居ること三年去て身を操觚社會に投し頗る著書に富む後岳南自由黨を組織
して明ら之を總理するや四方の志士來て是に投する者多く隨て負債推積米薪の資を
欠くに至り遂に止むなく東京府に出仕す受くる所の俸給未だ之を償ふに足らず債主
數十應門に迫る淡山泰然として之を府會議事堂に集めて一場の演説をなす終に臨ん
て囊底を拂つて五圓幣一片を示し莞爾として曰く貧又た斯の如し諸君夫れ之れを了
せよと債鬼其の清貧を感じて又迫る者なし後居を勢陽松阪に移し高吟吟詠夢に風月
に遊ふ

伊藤姓伊藤名謙吉三州刈屋に生る放胆洒落にして細行を省みす少壯の頃十津川浪士
の群に入り其の衰頹に感くを察見して窮に軍資を懐き遠逃以て跡を闔す後内務省

出仕し雖て三重縣書記官となりしか故わりて職を辭し無事閑散の域に遊み時怡も衆
議院議員擢擧の事あるや前郡長土居淡山嫌を蒙りて獄中に在るを以て次期推擧の勞
に當らんことを誓ひ撰れて代議士となる而して後區民の意志に背きて腐敗議員の汚
名を流すのみならず淡山無事出獄の後にあるも二期擢擧に及んで前約を履まず論難
攻撃再撰の榮を受け加之改進黨の收賄告許に對して起訴辨駁社會の耳目を迎さし
かは大に區民の感情を失墜するに至る時に伊勢四知生なる者わり詠して曰く心腸鐵
石自誇堅。持説平生幾變遷。舛舛無賞誰製造。苞苴有跡客周旋。黃金半夜袖堪蔽。赤火
一時顏欲然。恢復何須更加醜。君譽不值半文錢。

野安老練

中寅獨步

野安姓野口名安次周防の人性篤實慎重弱冠より洋學に志し中年笈を負て東都に出て
大學東校の窓下に榮雪を集むること數年業成て東京醫學校講師を命せられしか聘に
應じて三重縣醫學校長兼病院長となり甲申の年職を辭して津市に開業す野安の初め

三重縣に入りし頃地方醫術の發達進歩せざる固陋偷安の徒多きを以て大に書策の煩
を重ね他方の輕侮を免るゝに至る之れ全く野安其人あるを以ての故にして同業社會
の尊信を受く果して偶然にあらず曩に學位令の發布に際して醫學士の稱號を肩にし
名聲熾灼たり

中寅姓中井名寅次郎伊州伊賀郡茅野の人性敏達にして世務に通し人の爲めに心性を
羈絆さるゝ事を好まず曾て縣會議員に擧られ尤も名聲を博す彼の干涉警部長を以て
有名なる田中坤六を逐はんとするの議あるや論議紛々硬軟二派に分る中寅純ら硬説
と主張して前議を變せず書策營々遂に轉任を命せらるゝの結果に至る當時縣會の紛
擾ある常に一種の情弊ありて議員の節操恰も紙片の如く朝改暮易恬として顧みざる
ものあり中寅頻に之を慨歎し紛議ある毎に侃々諤々として驚動の任に當り屹然獨歩
忌避する所なし人其の身幹に比して斗大の膽に驚く

野 幸 杜 氏

尾 二 法 士

野幸姓野呂名幸之助飯高郡深野村の人性謹直縣會議員に擧られ好んで政治上の事に
奔走す辛卯の歳衆議院議員の解散に當つて第四區の候補を争ふ者土居光華伊
藤謙吉の二氏あり野幸伊藤の爲めに盡力到らざるなく遂に勝を制するに至る他なし
野幸の功多きに居ると云ふ家酒造を業として資産稍裕かなり常に地方の公益に幹旋
し居村の長に推されて其職を全ふす

尾二姓尾崎名二具山田に家す幼にして齊藤拙堂の門に入り稍や史學に通せし頃大に
見る所ありて法學を修め終に代言と業とす性廉直常に儒學を宗ひて法を説くこと喜
はす訟事の起る必ず先づ其素情を審し狼戾射利の事に至ては万金を以てするも顧み
す至誠自ら推して憚る所なし閑あれば悠々風韻を事とし嘯月吟花綽々として得る所
あるもの、如し故に隣郷呼て有徳法士と云ふ

今 忠 泣 税

瀧 義 清 懷

今忠姓今中名忠伊州上野の人性樸直にして頗る氣慨あり釀酒を以て業とし酒造營業

取締人となり能く其の改良に幹旋し地方同業者巨藁として夙に其名を知らるゝのみならず力を社會的事業に盡すを以て本分とし銳意精勵遂行を期す曾て酒造稅輕減請願委員となりて熱心奔走せしも未だ其の目的を達する能はず是に於て今忠道憾措く所を知らず口を開けは必ず該談に入り熱情凝結涕淚と成りて胸中に溢る
瀧義姓瀧野名義之香雪と號す矢土錦山の弟なり幼にして巖谷一六の門に入りて學ぶ書を能くし今は故山にありて吟詠を事とす山盟水約宿心親。家有出園未甚貧。窮達皆天吾豈歎。琴書不負太平民。其の清懷亦羨むへし

松 恒 交 際

清 長 泣 牛

松恒姓松本名恒之助津市の人敏達にして世務に長す伊勢新聞社長となりて能く其重任を全ふし尤も繁劇なる處務を理して毫も滯滞を見ず多數の社員又た服従して不平を訴ふる者あるを聞かす老練篤實若輩者中の交際家を以て推され客常に其室に滿ち談笑の聲日夜相續て喧々擾々たり

清長姓清水名長兵衛南勢松阪の人性豪放煩を厭ひて英雄に擬し好んで時事を論す茶油を販て業となし傍近の財産家たり一日大に威を起して業を廢し盛に積ふ時に牛疫の襲來に會して悉く斃死す清長洪歎又た數日食を廢し涙を止めて牛を哭す後人に逢て他の語なし只牛の年齒を算して指頭を睨し歎歎以て涙に繼ぐ坐客愛物の濃厚を賞して倉皇袂を分つ

林 宗 建 議

森 六 自 重

林宗姓林名宗右衛門奄藝郡明村の人世々久居藩の郷士たり明治元年郷長に擧らる居常人に語て曰く爲政の全きを得たり性淳直寡言にして愛國の情切なり故を以て私財を具陳し大に村政の全きを得たり性淳直寡言にして愛國の情切なり故を以て私財を抛ち屢々公事に幹旋し褒賞を受くる其幾回なるを知らず庚辰の年縣會議員となる當時縣會理事者と確執を生し頗る紛紜を極めたりしかは自ら主唱して三十餘石と共に職を辭し再三推撰せらるゝも受けず後實業家の爲めに推されて第百十五國立銀行支

配人となり大に商業の發達に力を盡し遂に多額納稅者の故を以て貴族院議員の榮位を占む其の議場に臨むや敢て叨りに口を開かずと雖も第一期の議會に際して貴族院規則の不備なるを唱へ其改正を主張して大多數の賛成を得遂に能く其の希望を全ふしたるより聲名益々高く諸般の委員に推されて其任を欠かす家にありては數百の家僅を使從して杜氏を業とし巨万の財を處理して勢陽第一の醸造家と仰かる

森六姓森川名六右工門伊州上野の人性温順にして衆望是に歸す縣會議員に推選され常置委員となりて孜孜事を處す常に意を殖産事業に注ぎて其の勢情溢し出せんとするも敢て論談人を挫かす眞意を齎して抑止するの感なき能はず之れ或は已を重するの厚きより出づる所乎

齋種張翼

宮右濶達

齋種姓齋藤名種五郎津市に住す放膽にして客氣あり世務に通して事を知るに敏なり身を新聞事業に投すること十有餘年熱心以て之に當る始め東都に在て探訪に従事し機敏變轉頗る妙を得大に社會の好耳目たり後三重新聞社長となり名譽灼々して許すに才子を以てせらる

宮右姓宮本名右一飯高郡川俣村の人家素より富豪を以て聞ゆ未だ兒たりし頃京師に出て師を求めて學を講ずること幾年頗る氣慨ありて濶達なり其の社會の形勢を論談するに至ては勇氣面容に顯れ識者をして賛歎措かざらしむ衆議院議員撰擧の頃土居淡山の爲めに大に盡す所ありしか事成らす是に於て英氣層一層早晚素志を貫徹せん事を期し熱心昔日に倍す人其の已を欺かざるに服し宏量鞏固一意専心に驚く

石四自由

竹駒絶筆

石四姓石井名四郎員辨郡阿下喜村の人初め板垣翁の自由黨を組織するや遍く名士を天下に求む石四又馳て幕下に集る板翁一見嬉色滿面に溢れ確く將來を契りて背かざるを誓ふ後同盟の士大半退くに至るも石四節を守つて約に背かす身を擧げて自由主義擴張の難局に當り常に人に語て曰く自由は天の與ふる所我之を取るに於て又何を

か憚らん

竹駒姓竹井名駒郎飯高郡松阪の人沈着にして氣慨あり言辭を好み文を能くす殊に少年法學家として聲望を博し曩日自由主義擴張策を著して倍々其名を知らる然れども多病にして意を放にする能はず人以て遺憾となす

木 誓 改 進

辻 寛 賣 藥

木誓姓木村名誓太郎員辨郡大社村の人沈黙にて贅辨を好まず夙に豪農を以て郷黨の尊信する所たり縣會議員となりて縣治に醒寤し熱心畫策寸暇を餘さず然れども隨般公共の事業に當りて勞を辭せず煩を厭はず關西鐵道敷設の如き又た與て力あり勢陽屈指の人物として縣會議長に推選され孳々乎として職を盡す豫て改進黨を奉して身を政治海に投じ聲聞倍々著る

辻寛姓辻名寛三重郡水澤村の人性温順感慨の吐言を聞かす業を東京専門學校に受けて郷に歸り三重私立衛生會幹事となりて津市に住し三重新聞社に入りて筆を執る立

章可なりと雖とも未だ眞意のある所を知らず家にありては藥館を以て業とし頗る商業的思想に富むと譏らす其評當れりや否

上 秀 堅 志

菊 哲 興 家

上秀姓上村名秀三飯野郡伊勢場村の人幼にして穎悟學を矢土錦山の門に受く齡十四遊學の志を決し私に十金を懐きて大阪に至り大阪病院に入りしか幾もなく京都病院に轉し「コンゲル」及び「マンスヘー」等の外國人に就て醫學を研究す時に不幸嚴君の訃音に接して故郷に還る當時家計冷落遺族を養ふの略なし故に休養の止むなきに至り業を開て家族を育す然れども勉學の志念勃々として止まず知人某貸すに學資を以てし用て素志を達せしめんとす上秀欣喜措く能はず直に程を發して東都に上り順天堂に入りて學を講ずること三年遂に三重病院醫に聘用さる。に至りしか庚辰の歲職を辭して飯高郡大石村に開業し飯高飯野郡醫會幹事及び同郡私立衛生會委員の任を托せられ大に名聲を馳す其技能富蘊加るに施術の懇到なるより患者續々として治を

乞ひ大に人に欽羨さる

菊哲姓菊澤名哲之助伊州名張の人家世々醫を業とせしか維新兵革の際家道落魄嚴父
遂に業を廢し終に藥舖を開きて家眷を養ふに至りしより菊哲日夜苦役されて寸暇を
餘さず然れども勉學精勵の志念は瞬時も腦裡を逸せず祖業回復の爲めに肝膽を碎く
時恰も好し三重縣醫學學校創設の舉あり菊哲之を聞て眠食を忘れ刻苦の功能く入學試
験に第し愈々心を専らにせしより衆生を排して卒業の績を全ふすると同時に三重縣
公立病院々醫に擧られ職にあること三年辭して郷里に開業し大に家政を挽回せしの
みならず人に接するの切實なる多く見さ所なりと稱す

内如取履

川飛棄匙

内如姓内山名如照桑名郡東方村の人轉して四日市に家す緇徒より出て、代言人とな
り資を積んで關西鐵道會社に入り長所に長して頗る愛嬌を賣る威ありて猛ならず理
論を胸底に埋藏して紳士の態を備ふ其の得意とする所曰く處世曰く才子以て性行を

ト知するに足る

川飛姓川戸名飛佐治鈴鹿郡野登村の人性快濶にして氣力あり奇人を以て稱せらる刀
主家として大に名譽を博すと雖余情禁する能はず夙に自由主義を奉して閑を偷み社
會改良の勞を取りて奔走東西且て寧日あるを知らず就中一夫一婦論を主張し品行万
正風教矯正を以て己の任となす壬辰三月推されて縣會議員候補者となりしか終に二
票の差を以て撰に洩る識者大に之を歎す

森確尊大

樸堂能書

森確姓森本名確也志州鳥羽の人性快活にして時事を快談す弱冠笈を負て東都に遊學
し敬宇中村翁の門下に止ること數年業成て錦繡を故山に裝ふ後擧られて縣會に入り
常置委員となりて頭角を現し無鳥域裡の蝙蝠を以て目せらる其の説く所須氏の代議
政体を基本とし叱咤一番老員の解する能はざるものあり之れ森確の尤も得意とする
所にして眞手の功績に至つては未だ世人の窺知せざる所之れ恐くは深く胸底に潛匿

する所以乎

富益姓富山名益次郎撰堂は其號也飯野郡神山村の人幼より筆硯を好んで之を弄し曾て玩具を手にはせず人以て異兒となす長するに及んで日下鳴鶴の門に入りて書法を學ぶ鳴鶴甚た之を愛して奥儀を授く之に依りて業大に進み未だ數年ならずして勢陽の冠頭と抑かる家富て余財ありと雖とも世潮に激して奔流に掉さす壯年血氣を以て風雅を事とし琴を彈して世俗と伍せず時に杖を勝地に曳きて吟詠自適し仙趣を味つて日月を澗過す

鈴 廉 感 憤

堀 鶴 養 物

鈴廉姓鈴木名廉平四日市の人性淳直杜氏を業とし同港の同業者三輪猶作等と提携して酒造改良の運掛に奔走し他人の哂笑を顧みず己の直を直として毫も耻つる所なし少時好んで史書を繙き慷慨の氣節固結して涕淚となり數々歎聲を洩らす帝國議會の政府と衝突を來し 天皇震慮勅を下して帝室費を節し玉ふの事を聞くや鈴廉感憤立

るに百金を獻して製艦費に充てんとを請ふ後其密特を賞して許可を與へざるの令至るや茫然として自失するもの・如く手を拱て令書を諦視すると殆んで三時間餘堀鶴姓堀内名鶴雄飯高郡宮前の人素封家を以て其名聲噴々たり性伶俐にして輕佻ならず専ら意を殖産事業に用ひ山林の涵養茶圃の栽培の如きは尤も奮勵措かざる所にして其の發達を以て己の任となす幼より和歌を好みて閑あれば風雅を味ひ胸中の餘祐を發す故に人を勧誘する又た寛嚴宜しさを得其の恩に浴する者鮮少ならず就中横濱港に在て紳商の名を博し内外國人の爲めに指を摸せらるゝ大谷嘉兵衛の如き其の最たるものにて實に堀鶴か養成せし從僕たりし者なりと

杉 保 盲 目

後 仁 舞 踊

杉保姓杉村名保熹北勢桑名の人住して津市にあり堅忍酷薄にして人の心情を推すことを爲さず金を貸して活路を往く曾て縣會議員となり名論卓説の美名を聞かすも雖も間々奇行を示す杉保病て明を失ひ更に烏鷺を分たす然れども常に人に誇て聞らく

當世の人士中余と伍すへきの好侶なし、只有り古人張藉あり、彼れ曰く、目言すと雖も心
言せずと之れ真に我か友なり、爾云て掌を拍つ人、其の放語に驚き敢て云はす

後仁姓後藤名仁、兵衛津市の人、資性磊落にして細行を省みず、好んで無頼の徒と交り、放
言一番得々として肩を聳ゆ、家素と赤貧衣に寒暑の別なし、然とも定期米を賣買して一
朝千金の利を掴み、爾來天運米仁の名稱を聘せしむるに至り、津市屈指の巨商と仰かれ
市參事會員及び市會議員となりて能く其職を盡し、津市商法會議所創設の爲に奔走し
て倦まず、頗る酒色を好みて、數々花柳の街に遊び、豪放踴舞して踊大盡の綽號を受く

伊傳紡績

速熊風鑑

伊傳姓伊藤名傳、七三重郡室山の人性機敏にして頗る察見に富む、未だ我邦紡績の盛な
らざりし頃、其前途を察知し、自ら三万金を投して川島紡績所を設立し、果して盛大の域
に進む是に於て第一國立銀行支配人八巻道成、九鬼紋七等と計り五十万圓の合資を得
て三重紡績會社を起し、現に同社の取締役兼支配人となりて、大に力を盡すこと終始渝る

なし、只口實易の國本たることを論じて、眼中他物を存せず

速熊姓速水名熊、太郎紀州引本村の人、資性敦厚君子の風あり、幼にして穎悟夙におよ、
名聲を肆にす、能辨にして能く文を屬し、素行嚴正一として龜鑑ならざるはなし、成ある
に當て敢爲終に敗を招きしを聞かす、衆望豐富、數々縣會議員に推撰さる、も病を以て
固辭して就かず、家素より富裕にして多額納稅者の籍にあり、故に林宗の後を承けて貴
族院に入る者、速熊の外有ることなしと傳唱す

三猶關鐵

川寬教育

三猶姓三輪名猶、作北勢四日市の人、祖父某雅癖ありて家道を亂り、貧居して近隣の子弟
を集め、授業料を得て、纔に家族を養ふ、乃父大に之を歎し、酒造の業を營みて家事を經營
せんと欲せしも、俄然志を齎して逝く、三猶時に十七親戚故舊の救護を得て、漸く遺産を
保つ長するに及びて、明敏能く家政を整理し、父志を繼承して居を泗港に移し、釀造を業
として巨利を占め、遂に豪商を以て名を知らる、に至る會て縣會議員に擧られしも、意

志に反するの決議ありしを以て斷然之を辭し専ら意を商業に注ぎて衆に率先し酒造改良の協會を設立して同業の發達を誘ひ又た縣令岩村定高に説くに鐵道布設の急務なるを以てし桑名の豪商諸戸清六等と提携して京坂の間に遊説し大に畫策する所あり事將に成らんとして政府の爲めに拒まれ終に中止の止むなきに至る然れども今日關西鐵道の起る皆三猶等の計畫を彌縫せしに過ぎず故に關鐵の慈母と仰かれて監査役に推選され孜孜營々として懶懈を知らず

川寛姓川村名寛津藩督學川村竹坡翁の嗣なり幼より穎悟學を翁及叔父中内撲堂に受け齡十五にして藩校養正寮句讀助教に拔擢せられ次て漢學一等副教師に累進す維新の後新學制を布かる、や高等小學の學業を修得し壬午の年中等師範學科終身有効の証を受く初め津市小學校舎頗る狹隘にして子弟大に苦む川寛夙に之を歎し銳意新築の計畫に心肝を碎きて美觀宏壯の一校舎を得たり養正高等學校即ち是なり川寛身を教育に投してより茲に殆んど二十年衆望饒々として餘あり其間又た縣會議員に擧ら

る、こと再三殊に縣會と岩村縣令と權限を争ひ其局議員總辭職となりし時の如きは大に氣焰を吐て局面を變動し爾後議員に推さる、も敢て就かす身を學海に沈つて一意専心教育の進歩改良を企畫す

下 享 美 髯

安 東 敬 神

下亨姓下田名亨三朝明郡山越の人曾て職を戶長に奉せしか幾もなく同郡天文子の後を享けて縣會議員に擧られ風格を以て人目を驚かす隆準にして黒髯鬚と戰さ温平たる好男子なり然れども世人評す寧ろ愛すべきの人物にして敬重すべきの人物にあらずと其の眞意果して何れにあるを知らず

安東姓安藝名東洋南勢松阪の人性慎重にして氣概あり醫と業とす敬神の志に篤く屢は家資を投して弘道に肆施し 民事を知らず癸巳の歲松阪火わり火勢猛烈殆んど全市を灰盡せんとす安東の家亦た火中にわり四隣焔々安の家獨り全さを得たり是れ松阪大火の一奇世人以て安東敬神の餘徳となし

鈴善眼療

野龜養蠶

鈴善姓鈴木名善策濃州の人資性伶俐幼より讀書を好み諸子百家の書に通ず長するに及んで醫學に志し普通學科を得了すと雖ども未だ以て足れりとせず大學教授保錦之丞須田哲造二手に就て眼科を專攻し業成て醫籍を四日市に掲く患者群々其の及ばざるを恐れ遂に私立眼科病院を創め醫員數名を聘用して大に便益を與ふ須田氏門弟少からずと雖も至難の術われは必ず鈴善・招きて之を譲す人其の技倆を慕ひて門頭に集り自ら一家を成して諸醫に抜んす

野龜姓野呂名龜藏飯高郡粥見村の人性沈着夙に殖産事業に熱心にして南の第一の養蠶家と稱せらる亦た意を山林の栽倍に注ぎ年々數百名の人夫を庸使し地方無姓の徒をして糊口の途を得せしむるか如きははやく地方貧民を救濟せんとするの意に出ると云ふ

稻三偉業

大參開鑿

稻三姓稻葉名三右左門北勢四日市の人豊産を以て夙に其名を知らる性廉直にして大度あり談笑の間既に其意を決して又た已を欺かす公利に進んで私利を抛つ故に愚眼者評して投機万一の僥倖を期する者となす然れども埠頭を開きて港民の福利を増進し遂に特別輸出港となりて邦家富源の基礎を置きし者誰た之れ皆稻三其人の力にあらざるなし

大參姓大平名參治南勢松阪に居し卓犖にして敢爲の氣象に富み細行を以て婦女子の禮讓となし敢て節を屬して人に下らす宮川を開鑿する時の如きは多少感情の介在するなき能はずと雖ども已の信する所を信として人評に任せ怡然成功を告げしむるに至つて反對論者の賞讃を博し寧ろ其の勞費を謝せしむるに至る嗚呼大參又た一個の異丈夫と云ふへし

角利著書

白清棄業

角利姓角名利助志州鳥羽の人性温厚慎重好んで時事を談す縣會に入て常置委員とな

り後衆議院議員となりて昔日の聲望に倍し大に世の尊敬を受く然れども角利の角利たる所以は議場にありて老實の議論を吐露し人と交つて 厭を來さしめず私利を抛つて公益に盡すの一些事にあらす其素懷を著して後世に垂れんとするにありし閑われば筆を窓下に揮ひ句々言々世道を庇益せんとし著書の多き其數を知らず世間其名を唱道する又た謂れなきにあらざる也

白清姓白井名清榮門度會郡古市の人世人曾て其名を知らずと雖も妓館油屋の主として家名遠近に聞す白清大に感ずる所あり業を旅館に轉して縣會議員となり玉帳に換るに議案を以てし熱心擬視手を放たす之より益々成すあらんとする者の如し人は云ふ五十歩百歩の轉業なりと之れ非なり乃祖か蓄積の産を投して濟世の資に充ては未來運臺の款子孫に幸ひすへし

諸 清 誇 稱

高 貞 斷 念

諸清姓諸戸名清六北勢桑名町の人眼に一丁字なきも膽力の強硬なる万斤の鐘に當ら

んとす始め赤貧泥ふか如し然れども特權の臆を絞りて利を米穀市上に争ひ百戰百勝大に其の家産を興し自ら誇稱して天下の清六となす田産七十万歩蓄財百餘方圓に及び使役する所の男僮千有餘人居常利を好んで弱を挫き敢て公共の事を省みず故に人之を唱せすと雖とも海防費三万圓を獻して従六位の恩榮を擔ふ

高貞姓高木名貞太郎南勢山田の人性機敏小學校員を辭して東都に遊學し専ら法學を修めて郷に歸り代言の業を營む衆議院議員候補者として第五區に旗を挙げ尾崎學堂と争て勝たす口能く自由を主唱すと雖とも下其の敗を痛ます上却て之を措むと其世才の長する推して知るべきなり

學 堂 大 臣

竹 樸 寡 慾

學堂尾崎氏名行雄紅葉山人と稱す度會郡川端の人家元崎玉縣の郷士たりしか父行正に伴はれて今の地に居す性温厚篤實にして幼より文學を好み長するに及んで 然一家を成す改進黨中の猛將として身を政治海に委ね衆議院議場に立て指を屈せらるゝ

のみならず時事に人情に奇抜瑰麗の文彩を放ち世人既に其の才幹の巨大なるに驚く
 學堂大臣として自ら耻す世人又た之を誦して其域に至らざるを悼むのみ
 竹樸姓竹原名樸一南牟婁郡鶴殿村の人性活達にして論議に長す素行純白にして書生
 の風あり一見農家の子弟たるを解せず縣會議員となりて議場に入るや滔々として舌
 鋒を戦はし意志明晰人を感動せしむ社會的事業に當ては身命と財産を抛ち毫も念頭
 に關せず郷黨其の寡慾に服して心情を察知し前途大に望を屬す

六

明治二十六年七月廿二日印刷

全 二十六年七月廿七日發行

(定價五拾錢)

三重縣津市船頭町八十六番屋敷寄留宮城縣士族

著者兼發行者 太 齋 文 彌

三重縣津市立合町卅七番屋敷平民

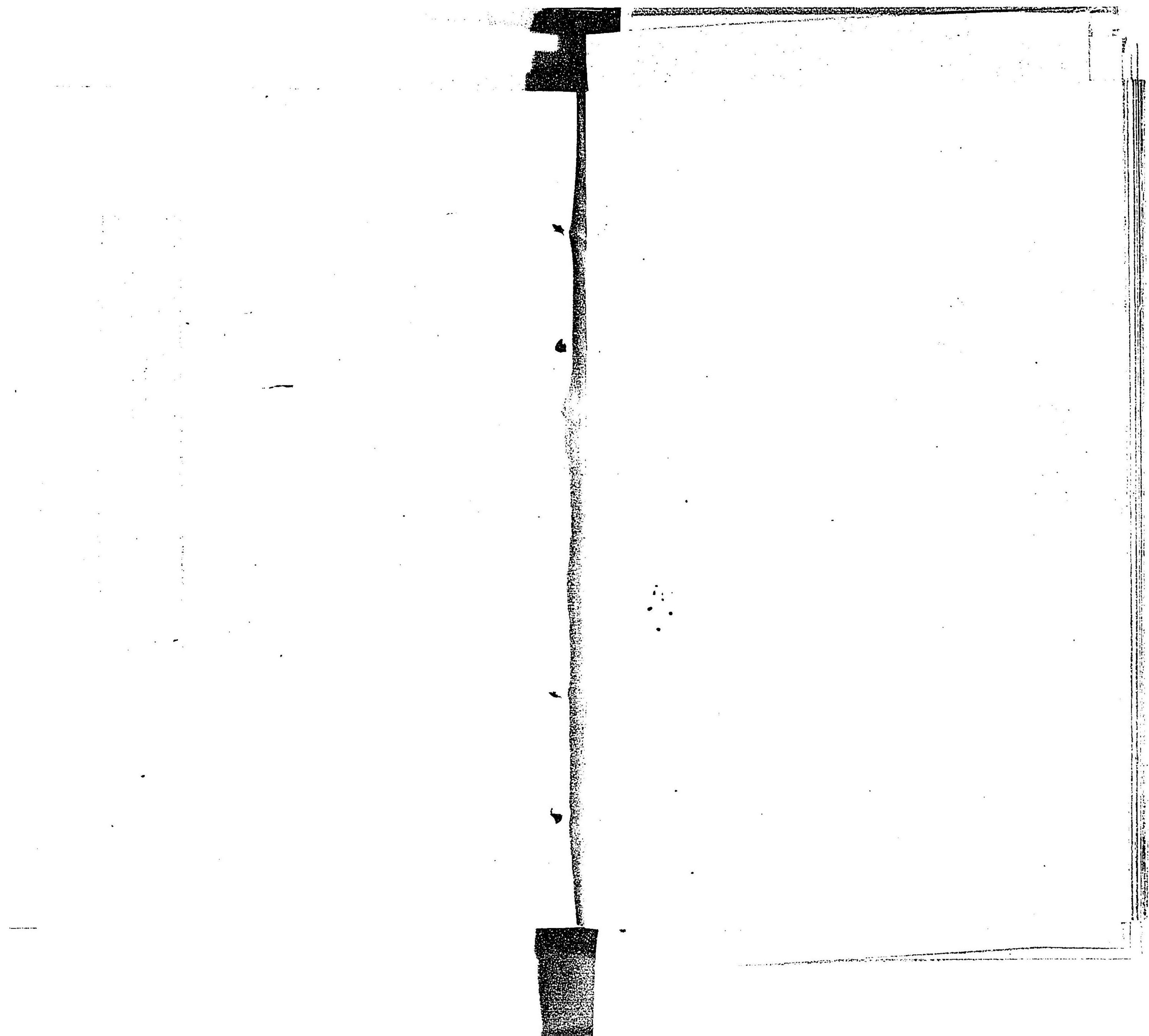
印刷者 竹 嶋 定 吉

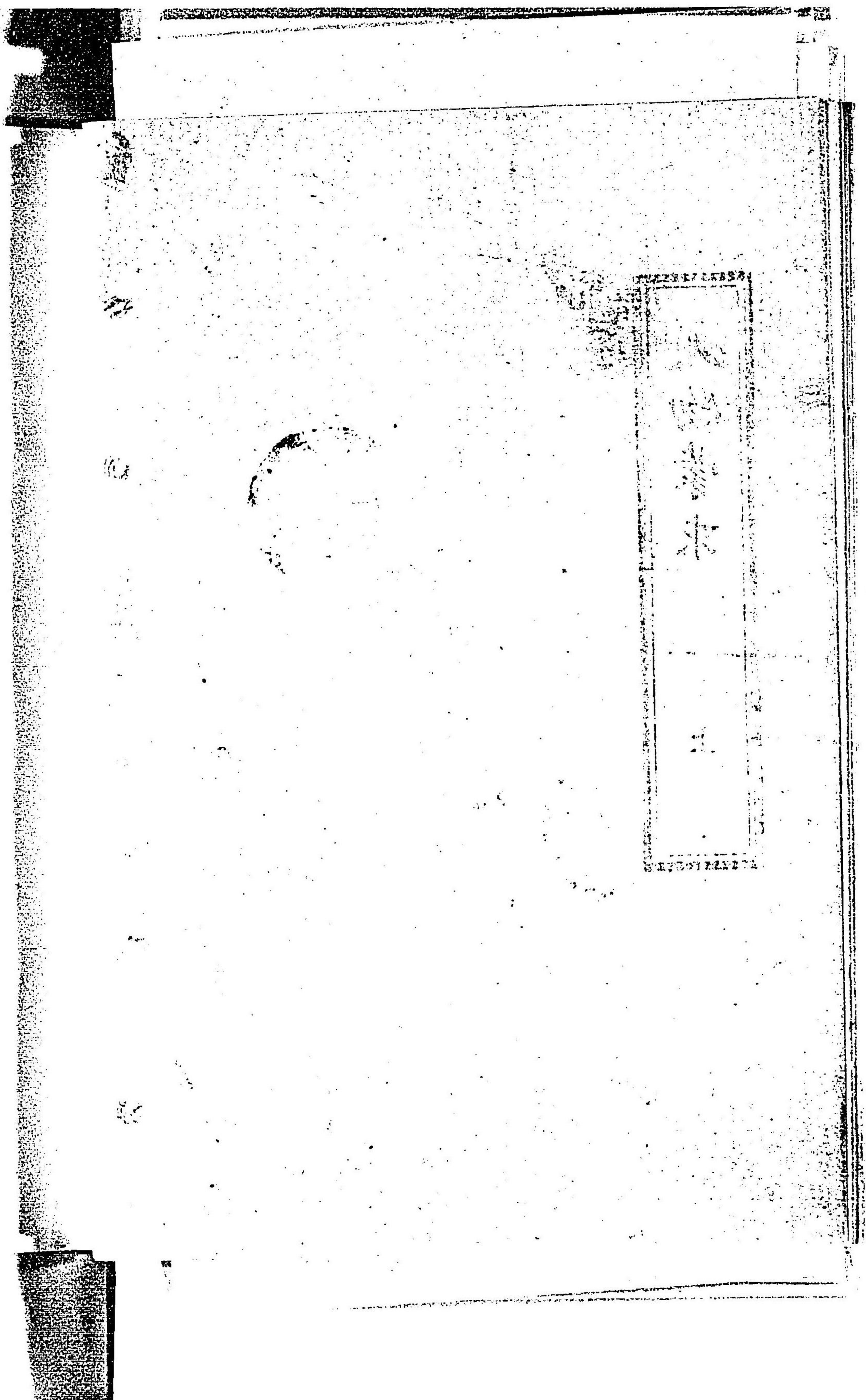
同縣同市同番屋敷

印刷所 竹 嶋 活 版 所

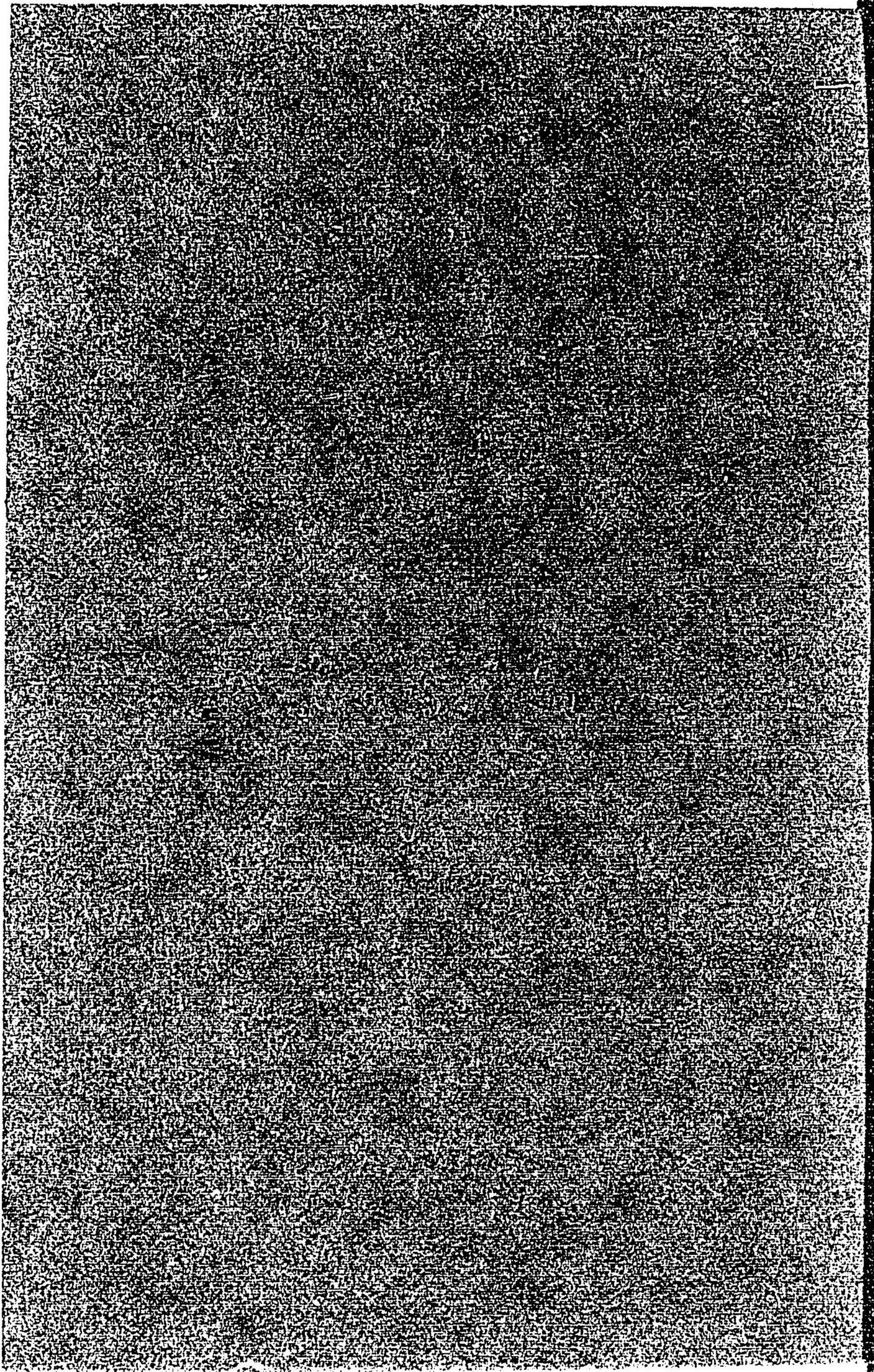
賣 捌 書 林

津市地頭領町	豐住謹次郎
松坂湊町	中西嘉助
北勢一手捌四日市場	伊藤善太郎
山田八日市場	有藤文堂
志摩鳥羽	伊藤信次郎
龜山東丸	加藤五百記
伊賀上野	廣田源藏





Vertical text within a rectangular border on the right side of the page. The text is extremely faint and illegible due to the high contrast and noise of the scan. It appears to be a vertical column of characters, possibly a page number or a section header.



附片

特54

284

人物蒙求

国立国会図書館

004610-000-4

特54-284

人物蒙求

太斎 文弥 / 著

M26

ACE-1211

